

特集にあたって

高田一宏

この特集は、部落解放・人権研究所が2012年度から行っている「人権教育と道德教育研究会」の中間まとめである。掲載された5本の論文は研究会における報告をもとに書かれたものである。道德教育と人権教育の間には対立の歴史があったから、読者の中には「なぜ『部落解放研究』が道德教育を取り上げるのか」といふかしま向きもあろう。そこで、ここでは、道德教育をめぐる近年の動向と研究会の趣旨を述べるとともに、若干の私見を交えつつ各論文を紹介したい。

研究所が「人権教育と道德教育研究会」を主宰するのは2010年度以来2年ぶりのことである。前回の研究会の後、新しい学習指導要領が実施に移されたが（小学校では2011年度、中学校では2012年度）、新指導要領のセールスポイントの一つは「道德教育の充実」であった。新指導要領において、道德教育は、特設の時間を「要」としてすべての教育活動を通して行うとされ、各校には「道德教育推進教師」を必ず置くことになった。

その後、昨年12月の総選挙で自民党が大勝し、「教育再生」を重点政策に掲げる第二次安倍内閣が誕生した。安倍内閣の復活にともない、道德教育副読本『心のノート』が再び小・中学校の児童・生徒に無償配布されることになった。首相直属の「教育再生実行会議」は道德の「教科化」にむけた提言を公表した。遠からぬ将来、道德教育は、特設の「道德の時間」が登場して以来、最大の転換点を迎えるかもしれない。

2006年の教育基本法改正の頃から、「道德教

育の充実」が政治主導で進む動きは加速している。今後は、憲法改正を視野に入れて「愛国心」の涵養がいっそう強調されるようになるかもしれない。しかし、教育関係者の間には道德教育と人権教育の関係について必ずしも共通認識があるとは言えない。一方には人権教育と道德教育は相容れない関係にあるという考え方があり、他方には道德教育を徹底すれば人権教育は不要だという考え方がある。政治家や市民からは人権教育こそが「公共の精神」や「規範意識」の形成を妨げる元凶だという論（曲論？）さえ寄せられている。道德教育が大きく変わろうとし、人権教育への逆風が強まっているときだからこそ、我々は、人権教育と道德教育の関係をあらためて検討する必要があると考えたのである。

あとの論文で鳥氏が指摘するように、道德教育と人権教育はそれぞれ固有の目標と内容を有するとともに、密接に関係している。人権感覚の育成は「価値・態度」をぬきには考えられない。その意味で道德教育は人権教育に欠かせない要素である。しかしその一方、平沢氏が指摘するように、人権的価値と道德的価値は時にコンフリクト（葛藤、摩擦）をひきおこす。また、道德教育は内面的資質（道德性、道德的実践力）の育成をめざすが、そのような道德教育の在り方に対しては、「社会変革の視点を欠く融和主義・温情主義だ」との批判が人権教育の側からくり返されてきた。もっとも、よくよく考えてみると、こうした批判は人権教育の弱みの裏返しでもある。鳥氏は、従来の人権教育において

は「知識」や「スキル」に比べて「価値・態度」面の学習が弱かったのではないかと述べている。これは、我々にとっては耳の痛い、しかし極めて重大な問いかけである。

平沢氏と島氏に共通するのは、ややもすれば対立的にとらえられてきた人権教育と道德教育を統合的にとらえようという問題意識である。平沢氏のいう「人権文化の4領域」や欧米の市民性教育の理論は、人権教育と道德教育の統合を考えるヒントになるであろう。

教育研究者とは異なる立場から、教材という切り口から、道德教育のあり方を考えているのが福井氏の論文である。福井氏は、NHKで道德教育番組『道德ドキュメント』の製作に携わった方である。福井氏は、番組製作にあたって、ドキュメンタリーとして事実から離れないこと、結論を提示しないオープンエンドの展開とすることを心がけてきたという。そうすることで、視聴者はさまざまな疑問を持ち、それについて話し合うことができる。『道德ドキュメント』が目指すのは、正しいとされる価値や考え方を「教え込む」のとは異なる、新しい道德教育の形である。異質な考え方や価値観を持つ者同士が粘り強く対話していく力を養うことは、人権教育が大切にしてきたことでもある。

柴原氏と川崎氏は、現在、教育委員会事務局に勤務されているが、ともに長きにわたる教職経験をお持ちである。柴原氏は京都市の教育方針や愛媛の中学校の実践事例を取り上げつつ、指導要領上の位置づけ、目標と内容、指導者の資質などの観点から、人権教育と道德教育の関連性を検討している。柴原氏は、結論部分で、道德教育を着実に実施することが人権教育の推進につながるという考え方を示している。実際、京都市では、同和地区を校区に有する学校から戦略的に道德教育の拠点校を作っていたという。一方、川崎氏は、人権教育・キャリア教育・

道德教育の関係を考察している。人権教育およびそれと近接・関連する教育を各校の教育課程にどう落とし込むかを考える上で、きわめて示唆的な論文である。

私はこの研究会を通して、人権教育と道德教育の「距離」は意外に小さいと考えるようになった。昨今の政治状況を鑑みると「道德教育の充実」には危惧すべき点が多い。しかしながら、いや、だからこそ、人権教育と道德教育の間に建設的批判と対話の関係が生まれるべきなのである。読者の皆さんはどのようにお考えだろうか。